

ほのぼの

第48号
平成30年
3月

発行
信行寺門信徒会

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL. 078-732-5209



日本は今、「人生百年」の時代を迎えようとしているようです。しかし、思いもしない長寿時代に私たちは戸惑います。「ご院主さん、こんなに長生きするとは思いもしなかった」と八十歳すぎのご婦人が漏らしておられました。日本人がこれまでに経験したことのない社会になつたからです。定年後のお金の問題もありますが、心の問題もあります。人生の終わりにのぞんで「どう生きたらいいのか。寝たきりや、痴ほうになつたらどうしようか。子供には迷惑かけたくない。」など、いくらでも不安の種はあります。誰もが持つてゐる悩みです。

いつまでもしつかりして生きていたいと思いますが、老いると「若いときはよかつたなあ」と、若くハツラツとしていた過去を懐かしむようになつてくる。どうにかして若さと元気な身体を取り戻したい、少しでも「老いること」にブレーキをかけたいというわたしたちの気持ちを反映し、若返りを促進する美容品や健康食品が大盛

「老いることはゴミになる」とではない

住職

況です。

また、「終活（しゅうかつ）」という言葉も最近よく聞くようになりました。七十代半ばの「婦人が「ご院さん、わたし今、「しゅうかつ」している

のよ」と聞かされたとき、就職活動の「就活（しゅうかつ）」だと早とちりしてしまったことがあります。終活とは、自分自身の人生の終わりに関する活動のことでした。



いると、役に立たなくなるから、生きている価値がない」と自分で決めてしまいがちです。どんなことが役に立ち、どんなことが役に立たないのか分からぬままでの判断です。「価値」がなければゴミです。自分だけの知識で、自分をゴミにしてはいけない。「本当にそうですか」と仏さまにお尋ねすると、仏さまの答えは「ノー」です。

「ああ面白かった」で終わりたい人や、「いい人生であった」で終わりたい人もいるでしょう。しかし、生きてきた「これまでが良かった」というだけでなく、「これからも良い」という人生の終わり方が大切だと思います。この世も良く、次の世も良いという生き方があることを知らせていただきましょう。

わたしたちには、「ひとに迷惑をかけたくない」という思いがあります。これは「ひとの役に立つている」という思いと同じで、プライドの一面です。誰にもプライドはあります。「迷惑をかけたくない」の思いの起こるのは、「迷惑をかけていない」という思い込みからきます。だから、「人間は老いも若きも支え合って迷惑かけ合いながら生きている」現実になかなか気づきにくいものです。しかも、「老

わたしたちは阿弥陀様にいだかれて生き、命終わると同時にお浄土に生まれて仏に成る人生を歩むのです。ゴミになる人生にはなりません。お念佛申させていただきますよう。



ご本山 念仏奉仕団参加



らつて続いたのでしょうか。

(☆) 特に印象深かつた事など有りますか?

平成二十九年十一月二十一～二十一日に十二名が
本山念佛奉仕団に参加しました。今回は赤坂亥才男
さん、敏子さんご夫妻が二十回、
新田光美さんが十回参加で表彰
を受けられました。



※ それにはなんでも赤坂亥才男

さんにお話を伺いました。

(☆) 初参加はいつだったんでしょうか?

(赤坂さん) 私は平成二年の信行寺参加十回目の時
でした。その頃私はまだ会社勤めをしていました
ですが、門徒の方に誘われて参加しました。家
内は平成五年に初めて参加しました。それまで
は子育てやお寺の用事などが有りなかなか参
加できませんでした。

(☆) 忙しい中二十回よく続けられましたね。

(赤坂さん) 私は途中二度大病をして休んだ時もあ
りましたが、その頃は三十数人の参加者が有り、
男の人も沢山いたのです。それでまた誘つても

赤坂さんには信行寺で数多くのお世話ををして頂いております。これからもよろしくお願ひします。

※ 平成十四年の寺報創刊号に、辻英子さんが念佛
奉仕団への思いを次のように書いておられたのを
ご紹介したいと思います。

『参加してみて、私共が奉仕させて頂くのではなく、ご本山の有難さを授与されていると申しても過言ではないと思います。(中略) 信行寺様との御縁、お念佛の深い御恩、そして、み仏様との強い結びつきを喜んで頂けますよう、心の依りどころとして頂けるよう、お一人でも多くの方々のご参加を心よりお感じ申し上げております。』

和氣あいあいの初法座

空 早苗

例年一月五日は門信徒会の皆さんと迎える初法座。

今年も本堂でのお勤め、「住職のご法話」で新年を迎えました。その後、礼拝堂で婦人会の方々の手作りおせちをいただき、アル「ールも入り和氣あいの会食となりました。

今年の催しは、ペープサートによる絵本「花さき山」の上演でした。光輪さんの朗読と副住職の雰囲気ある演奏を聞きながら、ブラックライトで浮き上がったペープサートを見ました。浮き上がった花畠がとてもきれいでした。

また、門信徒会会长新田泰三さんのトップバッターをかわきりに有志によるカラオケがあり、一層宴席が盛り上がりました。余韻を残しながらお開きとなりました。



来年もより一層楽しい初法座になりますように……。
どうぞ初めての方もお気軽に参加してください。

◎絵本「花さき山」 作／斎藤隆介・絵／滝平二郎

【ストーリー】山菜取りに山に入った一〇才のあやが、不思議な花畠で山姥に出会い、里の人人が良い行いをすると花が咲くことを教える物語。

〈ペープサート〉紙に人物などを描いて切抜き、棒をつけその棒をもつて演じる人形劇

今日ともしらず、明日ともしらず

副住職

先日、友人の奥さんが四十二歳の若さで亡くなつてしましました。まだ幼い子供さんを残してどんな気持ちだったかと思うと言葉もありませんでした。まだまだ生きて、家族と一緒にやりたかったこと、仕事や趣味の夢などたくさんあつたに違いない。残された友人にとって、行き場のない悲しみと憤りを感じていると思います。人生というのは自分の思うようにならないものだとつくづく思うのです。もつと生きたい、もつと一緒にいたいと思つても、死をまえにして私たち人間はなんと無力なことでしょうか。お通夜や法事の際にはいつも、御文章の「白骨の章」を拝読させていただきます。「人間の一生は夢まぼろしのようなもの、一生は過ぎやすく、やさき人やさき、今日ともしらず明日ともしらず、人間のはかないことは老少不定のさかいなれば、」普段は、生きているのが当たり前で明日も明後日も元氣でいるものだと思っているのですが、特に家族

や友人など近い関係の人が亡くなつたときに拝読させていただくと、蓮如上人のことばが心にしみます。人生において悲しみ苦しみを避けることはできなけれど、共にその悲しみ苦しみを引き受けて歩んでくださる存在があるなら、人はまた立ち上がって、一步ずつ前に進んでいけると思うのです。

阪神大震災追悼法要にお参りしたとき、「いのち」をテーマにした中学生の作文朗読を聞く機会がありました。中学三年生の女子生徒さんの祖父が余命宣告をうけて京都の仏教系ホスピスにおられたとき、彼女はよく訪ねて行つて一緒に話をしていたそです。あるとき、「おじいちゃんはもうすぐおらんようになつてしまふかもしかんけど、仏さんになつて、ずっと一緒におるからな。いややゆうても、ずつと一緒におるからな」と言われたそうです。私たちは死んで終わるのではないのです。お念佛をよろこばれ、お浄土に生まれ往く境涯を生きぬかれたおじいさんの「ずっと一緒におるからな」という言葉は、そのまま如来さまのおころのように感じました。なもあみだぶつ なもあみだぶつ

法語力レンダード

本願寺出版社の法語力レンダーがあります。今回は五月の言葉の説明をします。

かの如来の

本願力を観ずるに

凡愚遇うて

空しく過ぎるものなし

阿弥陀さまの本願念佛があるからこそ、それに出遇った者は迷いながらも生きていける。凡愚のわが身を安心して引き受けていけるのだろう。

「かの如来」とは阿弥陀如来のことです。悩み苦しみながら生きている私達を抱きとり、片時も離れず一緒に歩んでくださっている如来様です。「本願力」とは、私達を「必ず救いとる」という根本的な願い（本願）が成就し、今その力は、私達に力強くはたらきかけています。それを「本願力」または「他力」といいます。「観する」とは、その阿弥陀如来

の私達に対するはたらきの事実を知らせてもらうことです。「凡愚」とは、私達のありようを表しています。「凡」は「凡夫」、欲を出して腹を立てて日暮しをしている私達です。「愚」は「愚痴」、自分の行為のマイナス面に気付かず、自己弁護し正当化するために他の人を害している私達のことです。「遇う」とは、仏様の方から私達に遇いに来てくださつて出遭つたことを意味しています。「本願力を信ずる」とことと同じ意味になります。普通に使う「会う」とは違います。両者が約束して出会うのが「会う」です。意味の違いに注目しましょう。「空しく過ぎるものはなし」とは、自分の一生が空虚のままで終わらないことです。

親に産んで育ててもらつて、自分なりに一生懸命生きてきた私達の人生、これを阿弥陀如来は「絶対に空しく過ぎた」ということで終わらせはしない」と仰せられます。その大悲の心がはたらいているのが本願力です。「虚しく過ぎる人なし」というは、信心あらん人、虚しく生死にとどまることなし」と親鸞聖人は述べられています。

日頃の疑問を考えよう

Q 五月二十六・二十七日に信行寺でも永代経法要が行われると聞きました。永代経とはどのようなお経なのでしょうか？

A

なるほど、確かに「経」とあるのでお経の一つと思われるかもしれません。しかし、仏説永代経というお経はありません。

永代経とは永代読經の略で

あり、「永代にお経が読まれる」という意味です。

A Q

では、永代経法要とは一体どのようなもの、また何のために勤められているものなのですか？

A

故人の命日¹と永代に読經するという法要です。親鸞聖人は、「おくれさきだつ悲しみは、凡夫としてあるべきことだ」と言っておられます。亡き人の思いは簡単に断ち切れるものではありません。それとどまらず、先だって逝かれた人をご縁として、念佛のみ教えを子々孫々に伝えるための法要をい

います。浄土真宗では、死者の追善供養のために読經しません。死者個人の「為」ではなく、死者を「縁」として、私が仏法に遇えるご縁を、故人が結んでくださいり、聞法の機会を得る法要であります。（各宗派によって、位置づけは違います。）

A Q

では、どなたでもお参りしてかまわないのでしょうか？

もちろんです。この法要に合わせて、故人の年忌などにあたる家では、永代経懇志を納められます。永代経の永代とは、聞法の場が永代にわたって維持されるように願うということですので、納められた懇志は、お寺の修復や用具の新調などに充てられます。

お寺と門徒が一緒に先祖の遺徳を偲び、お念佛の教えを子孫に伝えていく思いをあらたにお参りしましょう。





信行寺行事予定とご案内

春の彼岸法要

三月二十四日（土）羽溪了先生

*法話の後、お斎を一緒に

二十五日（日）住職

両日とも午後二時より

第十七回 門信徒会総会

四月一十八日（土）午後二時より

おつとめ・総会・法話

*門信徒の皆様、多くの参加をお待ちしております。



花まつり

四月三日（火）午前十時より

*甘茶・灌仏・献花献灯などを行います。お孫さんや知人等お誘いください。いたやど保育園の園児さん達と一緒に楽しい時間を過ごしましよう。

「写経の会」毎月第二月曜日

午前十時～十一時半

皆様も一緒にどうですか？

編集後記

お斎（おとき）とは、仏事の合間に出来される食事のことです。法座のあとにテーブルを囲んで、ご縁のある方々と共に食（いのち）を頂く、という心が込められています。食を共に頂くと不思議とお互いの関係が近くなります。一年の始まりに家族が揃うこと。おせちを頂くこと。幸せなことですね。

今年の初法座にも有志の方が手料理を持ち寄つて下さいました。そして、一品一品を配膳して下さった門信徒の皆様のお陰で素晴らしいお斎が出来上りました。沢山のいのちを馳走して頂き、ご縁のある方々と共に今年も楽しく初法座を迎えることができました。お一人暮らしの方も増えていました。お寺でささやかながらも手料理でお酒もいただく正月もありがたいものです。

また、皆様の参加をお待ちしております。

本年も季節折々の信行寺の行事にお参り下さい。共に聴聞を重ねていきましょう。よろしくお願ひいたします。

米田 悅子